

【本研究の目的と方法（序章）】

公民教育で如何に生徒の社会参加を支援することができるかを念頭に置き、アメリカに誕生したサービス・ラーニング（以下SL）の理論と方法を明らかにする。

～1960年代

SLの誕生
（第1章）

- 米国伝統「参加民主主義」
 - ☞市民の自発的・主体的な社会参加によって形成される市民社会を目指す。
- 公民教育の目的
 - ☞共和主義的市民の育成

↓

義務を遂行する間、権利や自由を享受できる。
- 公民教育では「社会参加」を通じて理想の市民を育成。
 - ☞「参加の教育的機能」
- 1967年、SLの登場
 - ☞インターンシップに参加する大学生の市民的成長を願ったものだった。

「サービス」は、コミュニティにおける社会参加活動、「ラーニング」は「深い反省」という学習活動を指す。

1970年代

SL前史としての
公民教育改革論議
（第2章）

- 公民教育改革論議高揚
 - ①急激な社会変化
 - ②若者の政治的不信感と無力感
 - ③公民教育の軽視

↓

「責任ある市民」の育成例）ニューマン
- 「基礎に帰れ」の教育改革
 - ☞社会参加型公民教育の勢いが衰える

SL成立の必要条件（第4章）

- 「プロジェクト型の学習」
 - ☞「プロジェクト・メソッド」に基づき、生徒自らが社会的問題の解決を計画・実行していくプロセスを重視する。
- 「リフレクション」
 - ☞生徒の学習活動の連続性を保障する。読む・書く・話す・話すの4つを適切に配置すると学習が深化・発展。
- 「カリキュラム統合」
 - ☞教科中心カリキュラムにサービスという体験的活動を統合する理念及び方法。

1980年代

SLの成立と性格
（第3章）

- 「1990年・サービス法」の制定過程・目的
 - ☞SL推進の中心である政府組織、下部組織体系を明らかに。
- SLの定義、7つの観点
 - ・コミュニティのニーズ
 - ・学校とコミュニティの連携
 - ・カリキュラム統合
 - ・リフレクション
 - ・実社会における知識や技能の活用
 - ・教室からコミュニティへの学習の場の拡大
 - ・ケアの感覚
- SLの公民教育的性格
 - ☞「慈善」を志向するSL

↓

「変革」を志向するSL
 - 「市民的関与」とSLの関連性

↓

SLは変革を目指し社会に積極的に関与する市民を育成することが目的。

1990年代

SL実践例
（第5章）

- 小学校の実践(1991)
 - ・社会行動を起こす10ステップ
 - ①問題を一つだけ選びなさい
 - ②調査をこなさい
 - ③実行可能な解決策を列挙し、それを一つに絞りなさい。
 - ④活動を支持してくれる人と連合体を形成しなさい
 - ⑤反対者とうまく付き合いなさい
 - ⑥宣伝をこなさい
 - ⑦お金を集めなさい
 - ⑧解決策を実行しなさい
 - ⑨評価をし、振り返りなさい
 - ⑩決してあきらめな
 - ・この10ステップを直線的ではなく、ジグザグに育成していく
 - ・学校の近くにある管理不十分な産業廃棄物（ドラム缶）に目を向け、その撤去に向けて社会行動を起こす生徒の姿を見ることができる実践。最後は「スーパーファンド法」という法律を制定するという解決策に向かう。

研究の総括（第6章）

社会参加に基づく公民教育の目標・方法・内容の明示化、SLが公民教育改革において期待される。